

追悼文

赤木俊允先生 追悼文

国際ジオシンセティックス学会日本支部

IGS 日本支部会員の東洋大学名誉教授 赤木俊允（あかぎ としのぶ）様が平成 28 年 10 月 11 日に満 83 歳で逝去されました。赤木会員は、多年にわたりジオシンセティックス技術の研究に取り組み、IGS 日本支部の設立と発展に大きく貢献されました。IGS 本部の理事も務められ、2001 年には IGS Service Award (IGS 功労賞) を授与されました。

そのご功績を偲び会員ともども心から哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会員の皆様から、赤木会員の追悼文を、いくつかの思い出深い写真とともに提供していただきましたので、以下に掲載します。

故赤木俊充先生を偲ぶ

東京理科大学嘱託教授・東京大学名誉教授 龍岡文夫

元東洋大学教授赤木俊充先生は、2016 年 10 月 11 日に御逝去なさいました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

赤木先生は、私にとって東京大学土木工学科および地盤工学の研究者・教育者の先輩と言うだけでなく、IGS 日本支部において多くの様々な局面で重要な御指導を丁寧にして頂いた先輩でもあります。赤木先生は、米国留学と米国での実務経験を積まれた、地盤工学の分野で大変貴重な経験と見識をお持ちの方でした。国際組織である International Geosynthetic Society (IGS) の理事 (council member) として活躍なされたばかりでなく、IGS 日本支部の創設とその発展は赤木先生の貢献がなければとても難しかったと思われまます。特に、IGS の本部（会長、副会長、Secretary、Treasurer、事務局）は殆どが英語を母国語とする欧米人で構成されていて、理事会も当時は似たような状況でした。その中で、下の写真から伺えるように、赤木先生は IGS の core members と非常に親しい間柄でした。赤木先生は理事として活躍なされたばかりでなく、日本の国内組織であり多くの会員は国際活動と情報に疎い IGS 日本支部を本部と繋ぐという重要な役割を果たされました。

私が赤木先生の後を継いで Council member になったのは 1992 年に福岡で開かれた IS Kyushu の折でした。それまで国際学術会議の運営に携わったことが無かったため、それこそイロハのイからお教え願いました。Corporate member を Cooperate member と書き間違えて、赤木先生に指摘されたことは今でも覚えています。

赤木先生の絶筆は、恐らく 2016 年 1 月 27 日にお亡くなりになられた福岡正巳先生への追悼文「福岡正巳先生の思い出」ではないかと、思われまます。その追悼文では、IGS 及び IGS 日本支部の創設、発展に対する福岡先生の功績を強くお書きになっていますが、御自身の活躍については全く触れていません。しかし、赤木先生の日本支部に対する功績は、決して忘れてはならないと思います。



2002 年 7th International Conference on Geosynthetics, Nice (左から(前 IGS Secretary) Mr. Stevenson, P.; 赤木先生; (元 IGS Secretariat) Mrs. Stevenson, M)



2004 年 第 3 回 IGS アジア会議 (ソウル:左からマレーシア(元 IGS Council member) Mr. Lawson, C.; ブラジル(元 IGS Council member) Prof. Palmeia, E. M.; オーストラリア(元 IGS Council member) Prof. Bouazza, A.; 米国(前 IGS 会長) Prof. Zornberg, G.)



2006 年 8th International Conference on Geosynthetics, 横浜 (ドイツ(元ドイツ地盤工学会会長) Prof. Heerten, G.; 赤木先生: オランダ(元 IGS Treasurer) Mr. Voskamp, I.; ドイツ(現 IGS Council member) Prof. Ziegler, M.)



2008 年 第 4 回 IGS アジア会議、北京: (左から米国(前 IGS 会長) Prof. Zornberg, G.; 米国 Dr. Leshchinsky, B.; 米国 Mrs. Leshchinsky, O.; 米国(Univ. of Delaware) Prof. Leshchinsky, D.; 赤木先生)

赤木俊允先生を偲んで

埼玉大学 桑野 二郎

私が赤木俊允先生とご一緒させていただくようになったのは、25 年ほど前、まだ東京理科大学に勤めていた頃と思われます。恐らく福岡正巳先生のご配慮で、土木研究センターの土木系材料分野審査証明委員会に加えていただきましたが、赤木先生はその委員長を務めておられました。実は赤木先生のお名前は、学生時代に私の恩師の石原研而先生から伺っていました。研究室のコンパの席か何かで石原先生が「工学部 1 号館の裏に高い煙突のようなものがあるけれど、私が学生時代に同級生の赤木という奴があれに登ったは良いけれど、いざ上まで行ってみたら足がすく

んでなかなか降りられなくなってしまい、えらい騒ぎになったことがあるんだ」と楽しそうに仰っていたのが記憶に残っていました。従って、初めてお目に掛かった際に思ったのは「この方が高いところに登るのがお好きな赤木先生か」でした。

審査証明委員会では、赤木先生が歯切れよく議事を進められるのが何とも格好よく、なるほどこういう委員会はどうやって進めるのかと思いました。ただ私はなにぶん経験が浅く、提出された資料のどこをどう見て議論すれば良いのかチンプンカンプンであり、ひたすら大人しく座っていました。当時は色々と新製品のジオグリッドの審査があり、製造工程や性能試験の確認、あるいは施工現場見学で、結構地方へ行く機会がありました。見学では赤木先生、巻内先生、三嶋さんの後をくっついて、手練れの皆さんのコメントを聞き逃さないように必死でしたが、赤木先生は良く通る声で色々と質問を繰り返しておられました。

赤木先生が東洋大をお辞めになる頃であったかと思いますが、やはり委員会で富士市へご一緒する機会がありました。お天気が良く、富士山がよく見えたのですが、赤木先生は頂上を指さされ「去年はあれに登ったんだよ」とご機嫌でした。もうかなりのお年でしたので、お元気なのにびっくりするとともに「やはり高いところがお好きなのだな」と密かに思った次第です。

手の届かないほど高いところへ登ってしまわれましたが、きっと天の上でも良く通るお声でカラカラと笑われ、楽しく過ごしておられることと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。



工場見学(後列右から赤木先生、三嶋さん、
桑野、前列左端巻内先生)



懇親会での赤木先生

赤木俊允先生の思い出

東京インキ(株)顧問 清川 伸夫

先生と初めてお会いしたのは1990年前後の国際ジオシンセティックス学会(IGS)日本支部の幹事会であったかと思いますが。幹事会開始時間前に会議室に着席されて英語の本をお読みになっており、ご挨拶をすると優しく声をかけて頂いたことを思い出します。

先生はIGS日本支部において「学会としてどの産業においてもまず基本となるのは生産量、販売量、使用量などの統計である。欧米のジオシンセティックス(GS)の用途別使用量の調査は実施されているのに、日本にはない。このような基本統計が整備され公開されていることは先進国たることの必須条件である。」との強い信念から学会でしかできない事業として、アンケート集計

管理委員会を IGS 日本支部に設置されました。

先生は本委員会委員長として、IGS 日本支部のコーポレートメンバーとアンケート調査方法について何回も話し合った結果、日本の GS メーカー約 80 社に、1991 年、1993 年、1995 年と 2 年毎に使用実績のアンケート調査を実施されました。

当時 GS の使用実績は 1988 年に通産省（現経産省）生活産業局原料紡績課の主導によりスパンボンド不織布業界が集計した数字しかなく、日本の GS メーカーは自社製品の市場での位置づけが判らず、自社の販売実績から独自に市場規模を推定していました。

先生のリーダーシップにより、一社、一企業ではできなかった日本の GS 使用実績が明らかになりました。この IGS 日本支部より発表された GS 使用量実績は、我々 GS メーカーの中期経営計画・年度予算策定時に重要となる外部環境分析（市場規模、市場推移、自社製品の市場での位置付け等）に役立ち、販売戦略、製品戦略等の立案に大いに活用することができました。

さらに、先生は 1992 年から 2000 年まで IGS 本部の理事、IGS 本部ニュースの副編集者として長年の IGS への貢献が評価され 2001 年に IGS の最高峰の賞である IGS 功労賞を受賞されました。

また、1995 年から 2003 年まで財団法人土木研究センターの土木系材料技術・技術審査証明委員会委員長に就任され、GS 製品 11 種類の技術審査証明審査に携わり、GS 製品の性能を確認する試験・調査に基づいた審査方法を確立されました。

私共は、ジオグリッド（センサー）が 1995 年、ジオコンポジット（タフネル RD:織布の上下を不織布で挟み込んだ複合補強・排水材）が 2001 年に、先生のご指導により技術審査証明を取得することができ、特にジオグリッドは更なる飛躍につながりました。

IGS 本部、日本支部の発展に大きな足跡を残された先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

赤木先生の思い出

前田工織株式会社 伊藤雅夫

赤木先生に初めてお会いしたのは、1977年に東京で開催された国際土質基礎工学会の時です。その時の会議やレセプションの席での流暢な、またユーモアも交えた英語のスピーチには、大変印象に残った記憶があります。

IGS 日本支部では設立時から、支部の運営には大変お世話になりました。

先生の英語力のお蔭で、本部開催の理事会や各国で開催の会議の詳細な報告も即座にしていただき我々としては大変助かりました。本部から毎年送られてくる「IGS NEWS」の日本語訳をお願いしましたが、大変読みやすくまとまっており、改めて先生の英語力には感心いたしました。また、本部に毎年提出する「日本国内のジオシンセティックス使用量アンケート調査」に関しては、我々メーカーからの調査結果をまとめるという厄介な作業もしていただきました。

改めて、日本支部でジオテキスタイルの発展にご尽力された先生に感謝する次第です。

晩年には、グッドマン著の「カール・テルツァーギの生涯」の日本語訳を地盤工学会から発刊され、それを記念して2006年に地盤工学会で「赤木俊充先生翻訳テルツァーギ先生伝記発刊記念特別講演会」が開催されました。留学時代にテルツァーギ本人と直接面識あったということで、大変興味深い講演でした。その時に、先生から著書にサインをいただいたことを思い出して再びこの本に目を通しつつ、赤木先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。